

第652回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2023年4月度 ——

- ◇ 開催日
2023年4月17日(月)
- ◇ 議題
＜テレビ番組＞
「PLEIADES presents 旅立ちの日 2023」
放送日時：3月21日(火・祝)午前10：25～OA
- ◇ その他
2022年下期の番組種別の公表報告

九州朝日放送株式会社

第652回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2023年4月17日(月)午後3時25分～4時25分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 6名

委員長	石井靖子
副委員長	藤村まこと
委員	田川真司
委員	上野恵梨奈
委員	山根久資
委員	副田智幸

欠席委員数 2名

委員	中山裕二
委員	丸石伸一

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森君夫
執行役員 総合編成局長	木附ゆかり
執行役員 報道情報局長	柴田高宏
KBC MoooV 制作部長	下川博之
総合営業本部 部長代理 番組プロデューサー	津金澤那智
KBC MoooV 番組プロデューサー	石橋基弘
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	吉岡実
番組審議会事務局 (視聴者・広報室)	松永俊郎

4. 議題

- (1) テレビ番組「PLEIADES presents 旅立ちの日 2023」
放送日時：3月21日(火・祝)午前10：25～OA
- (2) KBCテレビ2022年下期の番組種別の公表報告
- (3) 4月・5月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (4) 3月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (5) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 高校生活の3年間をコロナ禍で過ごし、いろんなことを制限されてきた高校生の旅立ちに贈る応援歌的な内容でとても良い企画だ。これからも継続して放送してほしい。
- 前作に続き、コロナ禍で不自由な高校生活を送った高校生にスポットを当て、卒業式をテーマに高校生、先生、保護者を丹念に取材しており感動した。
- 3つのエピソードのいずれも、涙あり、感動あり、サプライズありの構成だった。高校生にとっても一生の思い出に残るプレゼントになったと思う。
- 盛りだくさんの内容がテンポよく紹介され、意外性もあり楽しかった。前作では課題として指摘したMCやゲストのトークの時間も程よく設けられていた。
- 番組を通して高校生の日常的なやりとりを見ているだけで心が和んだ。それぞれに物語があることが伝わり、番組を見ている視聴者も励まされる内容だった。
- 今の高校生の等身大の姿を表現していた。一見（視聴者からすれば）「遠い存在」にも思える高校生だが、根幹は自分たちともあまり変わらないのだなと感じた。
- 前作はどうやって取材先を探したのかという点で唐突感があったが、本作ではアンケート調査を実施したことが丁寧に説明されており、違和感がなく視聴できるよう改善されていた。
- 新宮高校の高校生が卒業式で EXILE のボーカル TAKAHIRO さんと合唱する場面は、嬉しそうな表情や感動した様子が視聴者の共感や感動につながったと思う。
- 「父に感謝の花束を贈りたい」という夢をかなえる高校生の親をリスペクトする姿や感謝する気持ちに感動した。愛にあふれる親子の姿を見ることができて良かった。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 卒業前の夢が「旅行に行きたい」や「親に感謝を伝えたい」では物足りない。長期間密着取材して感情移入できるエピソードを一話紹介する構成でも良かったのではないか。
- 新宮高校の高校生が卒業式で TAKAHIRO さんと合唱するエピソードでは、冒頭で TAKAHIRO さんが登場したので視聴者にとってはワクワク感が失われた。

- 新宮高校の卒業式では、高校生と TAKAHIRO さんが保護者席を向いて合唱していたが、高校生も TAKAHIRO さんの歌う姿を見なかったのではないかな。
- ゲストが現地取材するわけでもなかったのも、MCのKBC長岡大雅アナウンサー以外は存在感が薄く感じた。取材先のOBやOGを起用するなどの工夫もほしかった。
- 「父に感謝の花束を贈りたい」という高校生のVTR後でゲストの吉本一穂さんが号泣していたが、何か特別な理由があったのではないかと気になった。
- 取材したエピソードの3つ全てが女子高校生だったのが気になった。男子高校生にフォーカスしたエピソードもあって良かったのではないかな。
- エンディングで2～3名の出演者によるエールのコメントはあったが、できれば出演者全員から自らの体験談なども交えたメッセージがほしかった。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- 3年間コロナ禍で過ごした高校生に最後の最後まで思い出づくりをさせてあげたいとの思いで番組の制作にあたった。
- TAKAHIROさんと高校生が保護者席を向いて合唱したのは保護者への感謝を伝えることが目的だったから。企画に共感したTAKAHIROさんの「あくまでも主役は卒業生だと思う」「卒業生の感謝を後押ししたい」という思いも込められていた。
- ゲストに現地取材をさせるか悩んだが、(ディレクターやカメラマンなど)より少人数で取材に当たった方が高校生たちの素を引き出せるのではないかと考えた。
- ゲストの吉本さんが号泣した場面はスタッフも「いろいろなことがあったのかな？」と行間を読むしかできなかったが、逆に全てを説明するのではなくそのままの様子を描いた。
- 3つのエピソードの全てが女子高校生だったのは偶然。事前のアンケートで女子高校生がより熱い思いを回答する傾向は否めないが、偏りすぎないように設問内容を改善したい。
- 本作は公式YOUTUBEでも視聴することができるが3週間で10万回超再生されている。メディア離れなど懸念の声もあるが、良いコンテンツは多くの支持を得ると再確認できた。

などの説明をしました。